

議 事 概 要	
会議の名称	令和7年度第3回長久手市行政改革推進委員会
開催日時	令和8年3月23日(月) 午後2時から午後3時20分まで
開催場所	市役所会議室棟2階 会議室H
出席者氏名 ※敬称略	<行政改革推進委員> 8人 会長 石橋健一 会長職務代理 細萱健一 委員 室 淳子 委員 服部 亜由未 委員 岡崎信久 委員 畑中達也 委員 青山正秋 委員 近藤 恵美子 <事務局> 5人 総務部長、総務部次長、 行政課長、行政課課長補佐、庶務係長
欠席者	なし
傍聴者人数	1人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	令和7年度外部評価実施事業の改善状況について 令和8年度行政改革の進め方について
問 合 先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605

議事要旨

あいさつ

1 令和7年度外部評価実施事業の改善状況について

(1) 事務局から資料1に基づき説明

(2) 意見・質問

委 員 改善の結果は行政評価表で確認するべきと考える。令和7年度事業の評価票が作成済であれば添付してほしい。

事 務 局 現在作成中である。

委 員 評価票を継続的に見て行くことで意見が反映されていることが確認できると考える。作成時期を検討してほしい。

会 長 資料2の17ページに予算編成のスケジュールを入れてほしい。市と

してすぐに意見が反映できないこともあるので、できること、できないことが分かるような資料を作成してほしい。

事務局 予算が確定するのは3月議会で議決された後になる。今回でいうと、3月17日に議決された。

会長 担当課の改善状況は、もう少し具体的に表記してほしい。例えば、資料10ページ「予算編成と事務事業の関係を整理した」では、市民にはどう改善されたかが分からない。

委員 自主防犯活動支援事業の指標について、委員としては定量的な別の指標に変更するような指摘をしたが、回答は、定性的に指標を変更することを検討するという事だった。回答がかみ合っていないように感じる。

事務局 指標は複数あっても良いので、追加してほしいということは担当課に伝えていきたいと考えている。ただ、担当課も日常業務があり、すぐに対応できない場合もある。

会長 外部評価はPDCAのCに当たるもの。それが出来ないくらいに業務が多忙なのか。

事務局 業務が多忙であること以外にも、担当課の考えがあり、委員の意見に添えないこともある。

会長 伴走型でサポートすることが必要

事務局 外部評価の意見は市民の意見が聞ける数少ない機会であるため、繰り返し伝えていきたい。

委員 行政改革は組織の体質を変えるもの。市長が改革するという認識を持ち行っていくものと考え。上層部が、行政改革は市民のためであるという認識を持ち、事務局をサポートしていく必要がある。

事務局 副市長を会長とし、各部の部長が委員となっている行革推進本部会議において、外部評価やこの委員会で検討した内容について報告している。その認識を共通認識に出来るよう繰り返し伝えていく。

委員 委員会で意図していたことが担当課に伝わらないと外部評価を行う意義が薄れてしまう。

委員 上層部の合意を得て行政改革に取り組んでいくことが重要。職員と市長が共通認識を持たなければ、市の体質を変えていくことは難しい。

委員 本部会議で話し合ったことは市長に報告するか。市長がそれを否定した場合、意見は事業に反映されないのか。

事務局 意見を反映させるかどうかは最終的には市長の判断となるが、検討を積み上げてきたものは尊重される。

委員 外部評価で担当課と有意義な意見交換をしたことを市民に伝えようとしても、うまく伝えられないことがある。

会長 事務局は、委員らに対し、市が頑張っていることを市民に説明できるような材料を提供してほしい。

委員 資料3ページの「試行的に行う」という回答は進歩だと思う。是非市民に周知してほしい。

委員 職員の働くモチベーションは何か。そこが明確であればそこにアプローチすれば良い。

委員 民間組織でも同様の課題感を感じる。若手職員のモチベーションを上げることが必要。外部評価も去年と比較していろいろな工夫をしている。今後も工夫を継続してほしい。

会長 若手職員といえば、就職活動をする学生はどのような気持ちで取り組んでいるのか。

委員 一生懸命さはある。チャレンジをする気概を持っている。

委員 公務員志望が多いが、安定を魅力に感じていることは確かだが、こういうことをやりたいという意欲もある。それを継続していけることが重要

2 令和8年度行政改革の進め方について

(1) 事務局から資料2に基づき説明

(2) 意見・質問

委員 外部評価実施後の改善状況の後追いについて、進捗確認をしていくことは有効と考えるが、毎回外部評価をする必要はない。事業の選択の方法は、担当課の立候補制も取り入れると、事業への本気度が分かって良いのではないかと。

委員 事業達成のための経過を点検していくことが重要と考える。外部評価の意見に対して、担当課がどのように事業に反映させていったかの経過を分かりやすく示してほしい。

また、全ての事業を外部評価することは出来ないので、他の事業に横展開できるような事業を選定するのが良い。

委員 資料19ページ外部評価の実施方法について、ステップ3の外部評価本番で終わっているが、その後のフォローアップも実施しているので、ステップ4として記載すべき。

会長 外部評価のフォローアップの期間及び外部評価には市民（公募委員）が参加しているので、怠ると市民に伝わってしまうということを、職員研修を実施する際に伝えてほしい。

- 委員 今年度は職員研修を実施したか。
- 事務局 予定していたが、その時期に緊急の業務が入り実施できなかった。
- 委員 職員研修の講師は誰が務めるのか。
- 事務局 令和6年度までは外部の講師を招いていたが、研修のノウハウを得たので、しばらくは事務局職員が行う。3年に1度程度は外部講師を招き、新たな研修ノウハウを吸収していきたい。
- 委員 研修資料を委員にも展開してほしい。
- 委員 評価票の作成はとても重要である。市の事業の特性上、指標も定性になりやすい。内部だけで行っていると目標も甘くなりやすい。事務局には軌道修正をしてほしい。
- 会長 事務局は担当課を指導するというより、担当課が意欲的に事業を取り組めるよう伴走して支援してほしい。
- 委員 行政評価表が予算査定につながっていくことは大きなポイントだと思う。
- 事務局 企画、財政、行政が一体的に査定することは大きな意味があると考えている。
- 委員 委員会のスケジュールは議会の日程も加味しているか。会議の間隔が開き過ぎないように工夫して無理のないスケジュールを組んでほしい。
- 事務局 提示したスケジュールは議会等の加味している。活発な意見交換が出来るよう間隔も工夫していく。
- 委員 近年、事業総点検を実施したと思うが、外部評価の対象と事業総点検の対象事業が重なることで齟齬が生じることはなかったか。
- 事務局 行政課は事業総点検の事務局の一部であり、齟齬がないようにした。

次回は6月上旬頃を予定

内容 外部評価事業の選定